



## インド

健康な森、健康な人々、気候変動プロジェクト  
現地からのお便り（2020年7月～2021年6月）

2021年8月  
コンサベーション・インターナショナル

※本プロジェクトは、インドの現地 NGO Applied Environmental Research Foundation (AERF) が実施しています。

### 保全契約で森のつながりを取り戻す

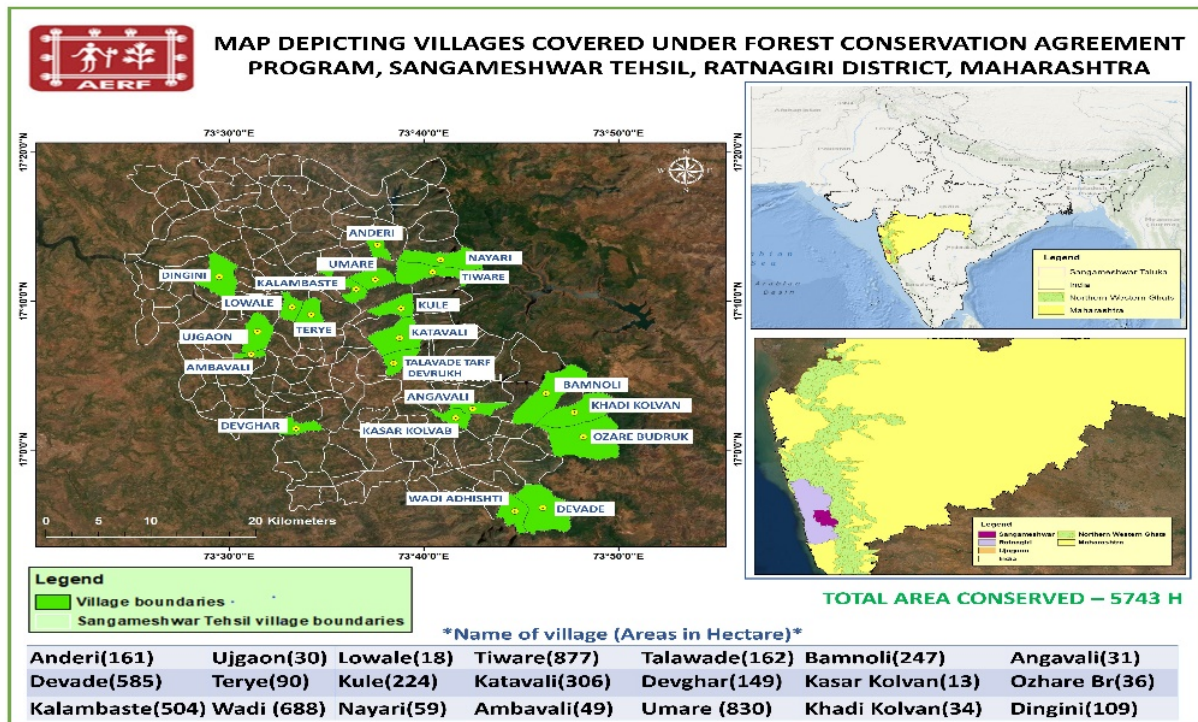
生息地の分断は西ガーツ・生物多様性ホットスポットが直面する生物多様性への脅威の一つです。AERF は、保護区ネットワークに隣接する私有林をつなげることで、分断化の解決に取り組んでいます。現在、Sahyadri Tiger Reserve の緩衝地域に位置する Ratnagiri 県 Sangameshwar 地区の 13 の村<sup>1</sup>で保全契約を使った私有林の保全を実施しています。

保全契約の対象である私有林区間間の距離を縮め、機能的なつながりを強化するため、これらの村々で保全する森林を増やす努力をしてきました。他のサポーターの助けもあり、今回の報告期間に Bamnoli 村の 38 ヘクタール、Devade 村の 50 ヘクタール、Ambavali 村の 17 ヘクタール、Wadi-Adhisthi 村の 106 ヘクタールを新たに保全契約の対象として加えることができました。さらに保全契約の対象林を増やしたいと考え、AERF は現在 Anderi 村、Katvali 村、Khadi-Kolvan 村、Bamnoli 村、Talwade 村のコミュニティに働きかけています。

ダイキンのご支援で始まった保全の取り組みにより、確実に AERF の保全プログラムが拡大し、地元コミュニティに便益をもたらしています。更に保全を拡大することで、これらの村々での森林減少のリスクを低減できます。

---

<sup>1</sup> Ujgaon 村、Anderi 村、Katavali 村、Lowale 村、Devghar 村、Wadi Adhisthi 村、Khadi-Kolvan 村、Devade 村、Umare 村、Bamnoli 村、Ambavali 村、Kalambaste 村、Talwade 村



保全対象地の地図（御社を含む複数支援者による支援地。村名の後の数字は村の保全契約対象地の面積<sup>2</sup>）

### 保全契約の森での絶滅の危機に瀕する種のマッピング

AERF の調査チームが生物多様性調査を 10 の村の保全契約の森で実施しました（Devade 村、Wadi Adhisthi 村、Talwade 村、Anderi 村、Umare 村、Ambavali 村、Bamnoli 村、Katavali 村、Ujgaon 村、Khadi-Kolvan 村）。植物、鳥、両生類、哺乳類を対象として、希少種、固有種、IUCN のレッドリスト記載種を記録しました。ガウル (*Bos gaurus*)、インドヒョウ (*Panthera pardus*)、ドール (*Cuon alpinus*)、サンバー (*Rusa unicolor*)、そして密猟・密輸の被害が大変大きいインドセンザンコウ (*Manis crassicaudata*) といった危機に瀕する哺乳類の生息地になっていることが確認されました。

調査の結果は、プロジェクトの取り組みが地域の貴重な生物多様性の保全に繋がっていることを実証するよい機会となりました。

<sup>2</sup> Total Area Conserved と示された 5743 ヘクタールは、保全契約の対象地の周囲の保全効果を受けている場所も含む。



Bamnoli 村の保全契約の対象林で撮影されたドール（左）とサンバー（右）

### 地元コミュニティの伝統的知識の記録

AERF は 2014 年からマハラシュトラ州生物多様性委員会（MSBB）と共に、インドの生物多様性条例（2002）、村レベルでの生物多様性管理委員会の役割と機能、生物多様性資源についての伝統的知識のデータベースである People's Biodiversity Register（PBR）についての地元当局の理解向上に取り組んでいます。Sangameshwar 地区では、AERF が活動する 13 の村に加えて 60 以上の村の生物多様性管理委員会で、生物多様性管理委員会のメンバーをトレーニングし、PBR の準備を進めています。AERF のサポートで 72 村で初期的な PBR が、4 村（Kosumb 村、Ujgaon 村、Devale 村、Devade 村）で詳細な PBR が作成されました。

### 森林再生

自生種の植林は森林を再生し生態系のバランスを向上するために重要です。Sangameshwar 地区の保全対象林の健康を改善するため、AERF は毎年、苗畑で地域の樹種の苗を作り、保全対象林内の裸地に苗を植えています。今回の報告期間中、19 種の 737 本の苗を Umare 村、Kalambaste 村、Talwade 村、Katavali 村の林の裸地や荒廃地に植えました。



Kalambaste 村と Katavali 村での森林再生作業の様子

### 有機ターメリックの新しいバリューチェーン開発

地元コミュニティの保全活動への参加を活発化する取り組みとして、Sangameshwar 地区の農家と共に有機農法の実践をはじめました。パイロットとして、Nivali 村、Devade 村、Kosumb 村、Dhamapur 村、Umare 村、Kule 村の農家がまず取り組みを開始しています。まず AERF がターメリックの根茎を無料で農家に提供し、有機栽培について指導しました。その後、AERF の営利部門である Nature Connect が収穫されたターメリックを買取ることで、農家の新たな生計手段を創り出しました。Nature Connect は現在、さらに多くの農家が参加できるようにするためのターメリックの新しいサプライチェーンを開発しています。

保全契約の対象林の周辺では、農地が野生動物に荒らされるという獣害被害があります。ターメリックは、農地を荒らすインドヤギウ(野牛)もイノシシも好まないため、保全と農業を両立させる解決策となります。



Devade 村で保全にも取り組む農家

※画像および文章の無断転用はご遠慮ください。